

令和元年度 評価表(全体評価) 学校関係者評価用

学校ビジョン	中学・高校の6年間の一貫教育を通して、自学自律の精神を養い、社会の各分野において指導的役割を果たしうる優れた人材を育成する	本年度の重点目標
1. 能力・適性を伸張させ、知・徳・体の調和の取れた生徒をつくる（個々の能力を最大限伸ばしながら、「賢く自立した生徒」を育成） 2. 自主学習の態度を養い、基礎学力の充実した生徒をつくる（学習の基礎を定着させ、授業・家庭学習を通して、自ら学ぶことのできる生徒の育成） 3. 協調性・責任感を培い、たくましい精神力と体力を持った生徒をつくる（礼儀作法を身につけ、何事にも辛抱することを通して、自己判断・自己責任で行動できる生徒の育成）		個々を伸ばす 6 + α

評価項目	具体的目標	目標達成のために本校が取り組んだ方策と成果	学校関係者評価と次年度への課題
倫理観の育成と規範意識の向上	規則遵守の徹底と倫理観の育成をはかる。	外部講師による説明会やセミナー（制服着こなしセミナー、中学交通安全教室など）を実施することで倫理観の育成を図った。マナーアップ運動や門前指導では、風紀・交通委員が中心となって活動した。	スマホ・ケータイ等の使用についての指導は継続してやってほしい。一概にスマホ・ケータイを所持することが悪いというのではなく、既に生活のツールの一部となっている以上、使用するにあたってのモラルの指導の徹底を教員は行ってほしい。使い方によって、利点と人権を侵害するという両面があることを生徒自身が判断できるような指導をお願いしたい。
	スマホ・携帯電話等の使用について、情報モラルに関する指導の徹底をはかる。	セミナー（スマホ・ケータイ安全教室）を開くなどしてモラルの向上を図った。学校規則に違反した携帯の使用が15件あった。（学校内での無許可でのケータイ使用）	教員が付いて指導しなくても、率先して清掃活動ができる生徒をいっそう増やしてほしい。
	生徒・教職員全員が校内美化に努める。（清掃活動やグラウンド整備など）	掃除の取り組みは徐々に良くなっている。（教員が見ていなくても生徒が自ら掃除に取り組み姿勢が見られる）グラウンド整備や除草については、今年度もPTAの協力をいただいた。	生徒対象の防犯訓練が行われていないので、来年度は取り入れてほしい。
	防災・防犯意識を高める	1学期は米子消防署の職員の指導・監督のもとで火災非難訓練を実施した。2学期は、自衛隊鳥取地方協力本部長を招いて、地震や原発災害に関する講話を実施した。	
基礎学力の定着と、国際教育・探究学習の推進	家庭学習の定着・・・1週間の家庭学習時間の数値目標を設定 中1・中2＝15時間、中3・高1＝22時間、高2・高3＝30時間	中学1年・中学2年は目標を達成した。中3～高3までは、時間数の少ない生徒に課題を与えて取り組ませたりしたが、平均時間は目標に達しなかった。	中高6年間の最後の1年（高校3年生）を高い向学心と進路意識を持って過ごすには、それまでの5年間の日頃からの指導にかかっていると思う。教員はそのことをしっかり意識して、指導に当たってほしい。
	授業改善、学力強化につなげるための教務活動を実践する。	アクティブラーニングを目指したタブレット利用の教員研修会を2回実施した。研究授業や高大連携研修会も実施し、授業改善や学力向上への教員の意識を高めることができた。	大学入試改革に関する情報の収集と素早い対応については、引き続き努力してほしい。
	海外研修旅行や探究学習成果発表会など、各種行事を成功させる。	米子市文化ホールにおいて、中1～高2まで探究学習の成果発表会を実施した。早い時期から計画的に準備し学習したことで、外部の方から高い評価をいただいた学年やグループがいくつもあった。中3の研修旅行は急遽、香港から台北に変更したが、研修の目的はほぼ達成することができた。高2の研修旅行での活動を含めた探究学習に関しては、80%の生徒が課題発見及び課題解決する技能を身に付けることができたとして自己評価している。	探究学習成果発表会を参観した感想だが、ひじょうに良くできており、生徒たちのプレゼンテーションの力が高いと感じた。また、学年が上がるほど説得力も高まっていると思った。生徒もよく頑張っているが、教員の探究学習に関する指導力も高いと評価したい。
生徒の適正に応じた大学進学の実現と保障	高大接続改革への的確な対応を行う。	大学入学改革に関する校内研修を実施したり、新学習指導要領に関する外部研修会にも多数の教員が参加した。新教育課程案はほぼできあがった。また、新テストに対する対策は既に始まっている。	推薦等で早く進路の決定した生徒が、一般入試で国公立大を目指している生徒の努力を阻害することがないような工夫をしてほしい。高校3年生は、中途からクラス編成を改めてもよいのではないかと。
	キャリア教育の充実と進学意識の高揚をはかる。	大学入試センター説明会、地元大学の進学説明会、模試会社の分析会等に参加し、適宜情報を収集することができた。高校3年生の面接セミナーも計画通りに実施できた。	ホームページに鳥取県人寮の案内を掲載している点を評価したい。生徒・保護者にもっと県人寮の存在を広めてほしい。それが、首都圏の大学進学への増加に繋がってもらえればと思う。
	大学進学実績の向上させる。	国公立大学では、東京大学、神戸大学、国公立大学医学部医学科3名などの合格者があった。私立大学では慶應義塾・早稲田・明治・神戸薬科・兵庫医科・同志社・立命館・関西・関西学院など多数合格。	国立大学医学部医学科3名、歯学部合格1名、東京大学・神戸大学等の合格は高く評価したい。
行事・生徒会活動・部活動の充実と活性化	各々のクラブが、今年度の目標を達成できるよう活動する。	多くのクラブが日々熱心に取り組んだ。バレー部・テニス部・剣道部・フィギアスケート・距離スキー・合唱（音楽部）など、多くの部活が中国大会や全国大会で活躍した。	部活動については、大会や競技会の結果だけで評価するのではなく、顧問は生徒個々の目標や意識を把握し、それがどれだけ向上したかどうかという基準で評価してほしい。
	生徒会執行部と執行委員が主体的に考え、活動する場面を増やす。	北斗祭については、今年度文化の部がなくなったため、実行委員を募集せず、執行委員で役割分担して北斗祭の運営を行った。生徒会役員と執行委員は、協力し、責任をもって運営にあたることができた。	職場体験について、単にその職場での仕事を体験するだけでなく、経営者の方々の考えや思いを尋ねたり、そこから生徒自身が提言できる事はないかを考えさせるという実施のやり方はたいへん良いと思う。こうした試みが探究学習成果発表会での良いプレゼンテーションに繋がっていると思う。
	ボランティア活動や、外部施設での体験学習等への積極的な参加を促す。	今年度も夏季休業中に予定されていた病院や福祉施設、保育園などでの仕事体験やボランティアに多くの生徒が参加した。中学2年では職場体験を行ったが、事前学習・事後学習も含めて充実した学習を積み重ね、企業や事業所の課題解決につながるアイデアを提示することができたし、生徒たちの自己評価も高かった。	職場体験について、生徒たちには職場の方々にはたいへんお世話になっているということを、しっかり意識させた指導をお願いしたい。また、受け入れ先の人たちが、どのような印象や感想を抱いたかを、次年度も教員の側はしっかり把握しておくことが大切だと思う。
心の教育の推進	教職員間で情報を共有し、いじめの防止に努める。	教職員の中で生徒の情報を共有して、複数で対応することを心がけた。学年団だけでなく、教科担当者や養護教諭も対応にあたるなど、学年の枠を超え、学校全体で取り組む姿勢が見られた。	引き続き、日頃から個々の生徒の生活に細かく目を配ってほしい。
	PTA人権教育部と連携し、人権教育に関する情報提供を適切に行い、日々の指導に活かす。	10月12日（土）に予定していた人権講演会（PTA人権教育部と連携）は、台風による休校で中止になった。「PTA人権部だより第74号」は保護者と教員とで編集作業を分担して行い、予定通り発行することができた。	人権指導に限らず、来年度も学校行事において保護者やPTA役員との連携を大切にして活動してほしい。
	特別支援教育の充実（個別の指導計画に準じて、基本的な生活習慣の確立や基礎学力の定着をはかる）	個別の指導計画は、できるだけ達成が可能と考えられるレベルに設定したが、目標通りにいかなかったケースが多かった。ただし、教員からの声掛けはできていた。また、年間を通してSCやSSWと連携を取ることができた。	昨年度、外部機関ともっと話し合える関係を築いてほしいという指摘をした。今年度SCやSSWとの連携がとれていることを評価したい。